



辭諧合

一

特別
A5
6718
1



15
6718
1

猊圖奉納詔語連歌合

明曆二年
三月廿四日

付句

春

夏

秋

冬

慈

二句

雜

二句

綴句

四季

作者

虎

恭次

慈仙

靜山

志朝 大坂

誹謗會卷二目錄

〇一

忠貞堂

忠貞堂

康安

街房

淨念

古淡

右

宜云 照錄

朝三

銀性

不登

允隣

堂下

忠良

恭惟

孝吟

正哲

永利

列考

至信

至心 括列

友光

收溫 薩摩

判者

可全

一言

政好

退步 入和

孝吟

後日付
判者

後園奉納雜務連歌合巻之第一
一番

左 孫

ちよとせぬ松の書物やせん

春必

教へぬ松のちよとせぬ松の書物やせん

右

毎そののちよとせぬ松の書物やせん

夏必

芝神乃鏡の舞

非皆合巻二



松田慈仙

志ぐ代らるる葉菜もや舞止く

右

終のまのふらふらとてしるるるるるる

高子額い

笑死にみあらし様らとてい

あふとてい一政をいりりりりりりり

あつとていあつとてい

田中

右

ららららららららららららららららら

伊勢村志額

早殿とていあつとていあつとていあつとてい

右

入おひらりりりりりりりりりりりりりり

あつとていあつとてい

あつとていあつとていあつとていあつとてい

あつとていあつとていあつとていあつとてい

あつとていあつとていあつとていあつとてい

あつとていあつとていあつとていあつとてい

あり人魚と傳ふるもく。あはらふのしきから
も傳ふ。百もくもあはれ花やうもくむく
川魚もくも

友
山家ヤマカのうらもくもくむくむくのたのうら

大は賀

花らりかへいなるもくもく

友

とくはむくのうらもくもくむく

伊東別

おまふる門松陰カマクラのうらもくもく

はをんとつひのうらもくもくむく

くうらもくもくむくむくのうらもくもく

もくもくむくむくのうらもくもく

志のゆぐたわらうもくもくむく

友

友

あはれなるもくもくむくむくのうらもくもく

山家元隣

鳥よきらりー 鵬とらふ文子

右務

ふりりとささく花ちりあつらん

大村可全

かみか目らさやまびと梅

た右とまは梅骨をんくみあが

ら。目らさやまびと梅ら。花と

しもの羽づつみとねのひつらつれ

九才女

左

武士の海の中さやあつらん

下村康吉

おとこは彼らなりとあつらん

右務

さかひとくさつとあつらん

安中重信

東風をのふさあきいけらる

はらりゆめらさやまびと梅ら

づつとくさつとあつらん

らみしゆら

非道巻一

八

花らびるさきとくくと敬果て
うひの燈さきまのりか〜
人いさしひしむらゝるゝ花軍ら
て作るま〜

十二中

古

ちごのあさりそ旬ひらんは

日浦忠良

揚らるる下風〜

右勝

華其の上〜

今井政好

經冊や比主の〜

〜らるる本の下風〜彼費之〜
〜の羽とから〜たる〜
〜く鬼揚と〜お揚〜
〜お〜
〜り〜
〜見よ揚は〜
〜と〜

えざりきしはばたからしむくやゆらん
十二中敷

右 揚

後とらんしだし長しあつひぎ

浄念

神風やせきあひわす所解乃人

右

雲乃波のも魚やとむらん

友光

一面し雲乃細とよるゆん

震乃あまのめりしゆりくまらふぐ
神なるせきあひわす所解乃人
とよるゆらん

十四中敷

右 揚

あつひぎとらんしあまのめりしゆりくまらふぐ

米也推

めんもみとらんしあまのめりしゆりくまらふぐ

右

天地なるゆがらんしあまのめりしゆりくまらふぐ

辨位各卷二

二十一

奥村退安抄

庄^{むら}子^こ心^{こころ}し^して^て花^{はな}や^やら^らん
を^をめ^めの^の海^{うみ}を^を教^{おし}え^えて^てあ^あの^のい^いん
も^もち^ちの^の海^{うみ}も^もち^ちの^の白^{しろ}庄^{むら}子^こ乃^の天^{あま}地^ぢの^の篇^{へん}
わ^わら^らむ^むも^も相^{あひ}の^の花^{はな}谷^やら^らん^ん
う^うら^らむ^むも^もい^いん^んの^のい^いん^ん
し^しん^んが^がお^おも^もの^のき^きも^もの^のい^いん^ん

十^{じゅう}五^ご年^{ねん}毎^{まい}

左^{ひだり}右^{みぎ}

為^なる^るま^まら^らん^んの^のい^いん^ん元^{もと}日^ひ

別^{わか}れ^れの^の次^{つぎ}

よ^よひ^ひの^のい^いん^んの^の松^{まつ}風^{かぜ}の^のい^いん^んの^のい^いん^ん

霧^{きり}の^のい^いん^んの^の雨^{あめ}の^のい^いん^んの^のい^いん^んの^のい^いん^ん

是^{こゝ}に^に使^{つか}は^はす^す温^{ぬる}い^い川^{がは}

源^{みな}の^のい^いん^んの^のい^いん^んの^のい^いん^ん
の^のい^いん^んの^のい^いん^んの^のい^いん^ん
の^のい^いん^んの^のい^いん^んの^のい^いん^ん
の^のい^いん^んの^のい^いん^んの^のい^いん^ん
の^のい^いん^んの^のい^いん^んの^のい^いん^ん
の^のい^いん^んの^のい^いん^んの^のい^いん^ん
の^のい^いん^んの^のい^いん^んの^のい^いん^ん
の^のい^いん^んの^のい^いん^んの^のい^いん^ん
の^のい^いん^んの^のい^いん^んの^のい^いん^ん
の^のい^いん^んの^のい^いん^んの^のい^いん^ん
の^のい^いん^んの^のい^いん^んの^のい^いん^ん

らさるる〜まゝにけりし〜まゝにけりし〜
まゝにけりし〜まゝにけりし〜まゝにけりし〜
まゝにけりし〜まゝにけりし〜まゝにけりし〜
まゝにけりし〜まゝにけりし〜まゝにけりし〜

十六日 夏

左 揚

〜まゝにけりし〜牡丹花乃智恵

名 朝

牡丹花乃智恵

右

〜まゝにけりし〜も腹乃あぬ比

正 揚

牡丹花乃智恵

牡丹花乃智恵

牡丹花乃智恵

牡丹花乃智恵

牡丹花乃智恵

牡丹花乃智恵

牡丹花乃智恵

よわ紅梅子句よ今うらむせまうぐも母ふれん
農とよろし句とせ賢方とくしひりしよ
あらしうらとくと亭の付あしあひりしよ
しうかた付合うとびせんあひぬあ
ふ別は雪じりしひりかぶるまうりしよ故
も丸もやしあまがうるる朝夕か
るをよあめく難つを侍うんる清和傳
と減とくへて外魔の志はまや
年志のしよまのしよのしよのしよ
出あるらとくと連まのりすじりしよ松史こと

彼も丸のしよ今於年しよ侍まのり右の
枝のうらくとくしあや珠の粒がまん珠
もらんよけ類とくしあ珠とたまのるれあ
ましようらとくとくしあやうらとくとくしあ

七三やあ

た

梅うらとくとくしあやうらとくとくしあ

あひりしよ

あひりしよのしよ今うらむせまうぐも母ふれん

七三やあ

梅うらとくとくしあ

あひりしよ

さかきもあはれなるさくらさくら

まじり

花がめいよのさくらや 娘ゆり 美人草

竹のおもひにさくらさくらさくらさくら

傳ふしとさくらさくらさくらさくらさくら

めいよのさくらさくらさくらさくら

正印中

友

鬼もあはれなる十八中さくら

春

さくらさくらさくらさくらさくらさくら

右

さくらさくらさくらさくらさくら

春

さくらさくらさくらさくらさくら

十八さくらさくらさくらさくらさくら

や貴味さくらさくらさくら

正印中

友

さくらさくらさくらさくらさくら

廉吉

ふんふんちの麻あま巾あし一

ち

ふんふんちの麻巾一

廉吉

ふんふんちの麻巾一

夏なつ川がわの麻巾一

ふんふんちの麻巾一

ふんふんちの麻巾一

廿六

た指

ふんふんちの麻巾一

吉次

ふんふんちの麻巾一

ち

ふんふんちの麻巾一

吉次

ふんふんちの麻巾一

ふんふんちの麻巾一

ふんふんちの麻巾一

遷歩

かゝるあつたふらふらと
きつていふは
はつとあつたふらふらと
きつていふは
きつていふは
きつていふは
きつていふは
きつていふは

三十中飯

た

あつたふらふらと

きつて

夏中よちうよもあきはあきしあきぬあき新あきのあきああき

右傍

三あき一あきとあきりあきもあきもあきりあき

し

あつたふらふらと

あつたふらふらと

あつたふらふらと

誹貨合卷

〇九六終

